令和４年12月23日

三浦市議会議長　草間　道治　様

都市民生常任委員会
委員長　出口 正雄

令和４年度　都市民生常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程
令和４年11月17日（木）・18日(金)

2. 視察地
新潟県　南魚沼市　11月17日
新潟県　糸魚川市　11月18日

3. 視察参加者
都市民生常任委員会
委 員 長　　出口　正雄
副委員長　　鈴木　敏史
委　　員　　蓮本　一朗（糸魚川市のみ）
委　　員　　石橋むつみ
委　　員　　神田　眞弓
三浦市上下水道部（糸魚川市のみ）
下水道担当部長　本島　慎也
下水道課長　　古川　　篤
随　　行　　幸田　友樹

4. 視察事項

〇新潟県　南魚沼市　「子育て支援センターの取組みについて」

〇新潟県　糸魚川市　「公共浄化槽（市町村設置型浄化槽）について」

【11月17日(木)】

（南魚沼市ＨＰより）

■ 新潟県　南魚沼市の概要

・面　　積　　584.55 平方キロメートル
・人　　口　　54,065人（令和４年10月）
・世 帯 数　　20,274世帯（〃）
・産 業 別　　第１次産業（11.4%）　　第２次産業（28.7%）
　　第３次産業（59.9%）
・市制施行　　平成17年10月１日（南魚沼市、塩沢町が合併）

■ 位置・地勢

南魚沼市は、新潟県南部の盆地に位置し、太平洋側と日本海を結ぶ交通の大動脈が集中しています。関越自動車道や上越新幹線など高速交通によるアクセスは大変便利で、交通および物流の中継地としての役割を果たしています。

こうしたアクセスの利便性向上に伴い、スキー観光地として観光産業基盤の充実が進むとともに、通勤・通学圏は新潟市近郊はもとより関東圏にまで拡大し、企業の進出だけでなく、国際大学、北里保健衛生専門学院などが立地されています。

地域ブランドとして全国的に高い評価を受けている南魚沼産コシヒカリを中心とした農業の振興、新たな起業への支援と優良企業の誘致をさらに進め、若者が定住し安心して働けるまちづくりを行っています。

四季折々の彩り豊かな自然景観と自然環境に恵まれた山紫水明の地でスキーなどのスポーツ、屋外レクリエーション、グリーンツーリズム、温泉など資源を生かした多彩な交流の拡大により、市の一層発展・飛躍が期待されています。

■ 市域

現在の南魚沼市の市域は、明治 22 年 4 月の町村制施行により生まれた 37 村が、「明治の大合併」を経て明治 39 年には 12 町村に集約されました。

「昭和の大合併」といわれた時代、昭和 31 年から 32 年にかけての合併で、旧大和町（昭和 37 年 4 月に村から町制施行）、旧六日町、旧塩沢町の形になりました。

そして、市町村の行財政基盤強化を図り、市町村がより充実したサービスを提供し、住みやすいまちづくりを展開できるように市町村合併を推進する「平成の大合併」の時代を迎え、南魚沼地域でも平成 12 年から合併についての取り組みが始まりました。

平成 16 年 11 月 1 日六日町と大和町の合併による市制施行で「南魚沼市」が誕生し、平成 17 年 10 月 1 日には南魚沼市が塩沢町を編入合併する形で新生「南魚沼市」となりました。

子育て支援センターの取組みについて

（南魚沼市の子育て支援施策について）

● 視察目的

三浦市の高齢化率は、県下１９市中一番高くなっており、出生率も全国、神奈川県と比較しても非常に低く、少子高齢化による人口減少が顕著に進んでいます。三浦市の子育て支援施策として、中学３年生までの医療費助成や平成３０年に市役所子ども課内に「三浦子育て世代包括支援センター」を開設したこと、市内の保育園内に併設している「子育て支援センター」などがあります。今回は南魚沼市の子育て支援センター「子育ての駅ほのぼの」事業について、施設の経緯や概要・実施状況を調査し、本市の子育て支援施策に生かすことを目的とした行政視察とします。

● 視察先対応者

進　行：南魚沼市議会事務局　主事　南雲 あゆみ
説明員：福祉保健部長　佐藤 克昭
福祉保健部　子育て支援課長　阿部 哲雄
福祉保健部　子育て支援課　子育て支援センター長　森下 あけみ
福祉保健部　子育て支援課　保育班施設主幹　内田 和則

● 視察訪問先　　子育ての駅ほのぼの（現地視察）
南魚沼市役所

● 事業概要

南魚沼子育て支援センター「子育ての駅ほのぼの」は南魚沼市役所から車で10分ほどの位置にあるイオン六日町専門店館１階、商業テナント内にあります。

現在の場所に移転する前の施設は環境に良いという声がある一方、日曜日は開館していないこと、全天候型の遊びの広場の設置要望に対応できないこと、近くに池があり心配であることなどの課題がありました。

その様な状況のなか、市の若手職員で組織した「人口減少問題プロジェクトチーム」が、ほのぼの広場事業を市内商業施設のテナントなどに移し、休日の実施や対象年齢を小学校３年生程度まで引き上げる提案を出しました。

平成27年12月のプレゼンテーションから２年後の平成29年12月に開設という短期間で移設できた要因は、プロジェクトチームとそれを支えた庁内関係部署及びイオンの協力、市長の指示によるものと聞きました。

開設に伴い、南魚沼市、ミキハウス子育て総研㈱、イオンリテール㈱と相互に協力する覚書を締結しています。なお、本施設はミキハウス子育て総研㈱が行う「子供を遊ばせたい安全安心な施設」に全国初の認定を受けています。

移転後の効果として、利用者の増（平成28年度：約１万４千人から平成30年度：約３万４千人）、利用者から多数の肯定的意見協力（気軽に立ち寄れる等）がある一方、隣接市に大規模な屋内全天候型施設が完成したことにより市民の意識に変化があるようです。「ほのぼの」は子育て世帯を支援するための施設であるので、隣接市施設とは対象が違うが、市民の要望をどのように実現させるかが課題であると伺いました。

毎年、利用者にアンケートをとり意見・要望を参考にできる範囲で対応をするとともに、他の事業を開催することで広場の周知を広げ、利用者を増加していく取り組みをすすめています。

■ 主な質疑応答

Ｑ：ミキハウス子育て総研㈱の認定はどこが応募したものか。

Ａ：ミキハウス子育て総研㈱が申請した。

Ｑ：予算の補正をすると聞いた。財源は。

Ａ：補助金及び市の一般財源。

Ｑ：南魚沼市はふるさと納税の収入が大変多いと聞いた。子ども子育てに使われているものはどのようなものがあるか。

Ａ：「安心して暮らせる福祉のまちづくりコース」を活用している。現在は令和３年度から出生のお祝い金「めごちゃん祝い金」の支給などをしている。
当施設の、オープンにも活用をさせていただいた。

Ｑ：親御さんからの相談で、どのような悩みが多いか。

Ａ：非常に多種にわたる。なかには愚痴を話すだけですっきりして帰る人もいる。
子どもの発達についての相談が多いと感じる。

Ｑ：ファミリーサポートの平均年齢について。

Ａ：50 代後半から 60 代が一番多い。

【11月18日(金)】

（糸魚川市ＨＰより）

■ 新潟県　糸魚川市の概要

・面　　積　　746.24 平方キロメートル
・人　　口　　39,887人（令和４年11月）
・世 帯 数　　17,181世帯（〃）
・産 業 別　　第１次産業（5.9%）　　第２次産業（35.6%）
　　第３次産業（58.5%）
・市制施行　　平成17年３月19日（旧糸魚川市、旧能生町、旧青海町が合併）

■ 位置・地勢

糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、南は長野県、西は富山県と接しています。市域には、中部山岳国立公園と妙高戸隠連山国立公園、親不知・子不知県立自然公園、久比岐・白馬山麓県立自然公園を有し、海岸、山岳、渓谷、温泉など変化に富んだ個性豊かな自然に恵まれています。

また、森林資源やヒスイ・石灰石等の鉱物資源や水資源など地域資源が豊富で、フォッサマグナについては日本列島生誕の謎を秘めた世界的な学術資源となっています。

■ 沿革

現在の糸魚川市域は、明治 21 年６月の内務大臣訓令により、それまで自然の集落を基礎としていた小規模な町村が集約され、明治 34 年に３町 15 村となった区域が基本となっています。

昭和 28 年には、町村合併促進法が施行され、糸魚川市、能生町、青海町が誕生しました。

そして、平成 17 年３月 19 日、糸魚川市、能生町、青海町が合併し、新「糸魚川市」が誕生しました。

公共浄化槽（市町村設置型浄化槽）について

（糸魚川市浄化槽整備事業について）

● 視察目的

三浦市において公共下水道が整備されているのは、現状東部の地区のみである。今後の人口推移等を勘案すると西南部地区に一括して公共下水道を整備することは、財政上困難であることから、市町村設置型個別処理浄化槽の手法を検討しています。そこで先進的に事業に取り組んでいる糸魚川市を視察いたしました。

● 視察先対応者

進　行：糸魚川市議会事務局　主査　田上　昌幸
説明員：ガス水道局　局長　樋口　昭人
　　ガス水道局　下水道管理係　係長　田代　正人
　　ガス水道局　下水道施設係　係長　鍋島　達雄

● 視察訪問先　　糸魚川市役所

● 事業概要

糸魚川市の公共浄化槽事業は、合併前の平成12年度に能生町で、平成16年度に旧糸魚川市で開始し平成17年３月19日の合併後全ての地域で開始しました。

生活排水処理計画に基づき、公共下水道区域、公共浄化槽等整備推進区域、公共下水道区域であるが暫定浄化槽区域などにわけられています。

公共浄化槽の対象は住宅、事業所、公共施設等全ての施設としていますが、個人設置も認めています。

使用料については、公共下水道事業等と同様の考え方で「従量制」としています。また、当初は３地域で使用料単価が異なっていましたが、平成22年度に統一しました。

個人が過去（平成17年３月19日以前）に設置した既存合併浄化槽は市に寄付採納することで、市が浄化槽を設置したとみなし、維持管理を行います。

■ 主な質疑応答

Ｑ：高齢化が進み、水洗化や単独浄化槽のままの家庭もあると思われるが、普及率を上げるためにどのような対策をしているか。

Ａ：家庭訪問、リフォーム助成金のチラシなどで周知を図っているが、なかなか踏み込めない所もある。

Ｑ：事前相談から浄化槽使用開始までどの位の時間がかかるか。

Ａ：工事業者から事前相談をしていただくことが多い。工事の契約まで１週間、工事まで２週間程度。改造の場合２ヶ月程度かかることが多い。

Ｑ：維持管理はどのように行うのか。

Ａ：工事とは別の業者に市が委託している。

Ｑ：市で設置したが使われなく、使用料を徴収できていないケースはあるか。

Ａ：ある。使わない場合は休止届を出してもらう。設置から10年以内に廃止すると国庫補助金の返還対象。

Ｑ：「従量制」について。

Ａ：水道メーターの量で決めるのが基本。井戸水など配水量を特定できない所は固定額または専用メーターをつけるケースもある。

Ｑ：寄付を受ける基準はあるのか。

Ａ：市の職員が現地で浄化槽の機能を確認したうえで、必要な修繕、清掃を行ってもらう。異常がないと判断した場合、寄付を受ける。実際に寄付を断ったこともある。

Ｑ：狭小住宅等で合併浄化槽が困難なケースはあるか。そのようなケースで、複数戸で共同浄化槽や道路等の公共用地での浄化槽設置などについて実施・検討したことがあるか。

Ａ：糸魚川市の浄化槽事業区域は大半が中山間地で敷地に余裕があるため、共同浄化槽の事例はない。道路等の公共用地での設置事例は神社への進入路となっている市道への設置事例がある。

行政視察の成果について

都市民生常任委員長　出口 正雄

新潟県南魚沼市の行政視察について

11月17日朝7時より議員４名（出口、神田、鈴木、石橋）、三浦市下水道担当部長、下水道課長、議会事務局職員とマイクロバスで東京駅から、新潟県南魚沼市の子育て支援センターへ視察に向かいました。（下水道担当職員２名は別行動）

まず南魚沼市の支援センター「子育ての駅ほのぼの」に現場視察に行きました。そこは、商業テナント内を賃借しています。これは外部組織との協調があってのことではないかと思います。そして、公設公営であることが強みだと感じました。

その後、南魚沼市役所で説明を受け、人口減少問題プロジェクトチームの取り組みについて特に関心を持ちました。自ら志願した職員の育成と、より柔軟な発想を取り入れること、プロジェクトチームと庁内関係部署の協力があり、市長自ら動いたのが一番の要因ではないでしょうか。

新潟県糸魚川市の行政視察について

11月28日、二日目の視察は糸魚川市の浄化槽整備事業についてです。この日から蓮本委員が合流しました。また今回は吉田市長の計らいで、下水道担当部長、下水道課長の２人が行政から研修として参加されました。私が議員になってから初めての試みであります。大変よろしいと思います。なぜなら他市との相違を体験することにあたり、本市から視察する側へ前もって質問を投げかけ、適確な説明をいただき丁寧な対応をしていただくことができました。

糸魚川市の浄化槽の整備事業は本市と同じ境遇だと思いました。対象者は住宅、事業所、公共施設全てで、個人設置にも条件によっては認めています。

まだまだ本市にも課題はありますが、自然豊かな三浦市にとって良好な環境が続くことを希望します。視察にあたって委員、事務局の協力がありケガもなく、予定どおり無事に終わりました。今回の視察を参考に議会としても慎重に取り組んでまいります。

２０２２年　都市民生常任委員会行政視察　報告

副委員長　鈴木　敏史

11月17日木曜日　南魚沼市（子育て支援センターについて）

・南魚沼市の面積は、三浦市の約２０倍近い広さがあるため、市内は３つの地区に分けられ、地区ごとに全天候型の子育て支援センターが運営されているとのことでした。その中の１つ、六日町のイオンで運営されている施設を、見学させていただきました。乳幼児用の遊び場には床暖房が整備され、床も柔らかく怪我をしないよう配慮がしてありました。

・ミキハウス子育て総研（株）が行う、「子供を遊ばせたい安全安心な施設」に、全国で初めて認定され６００万円の補助金が支給されたことや、志願した若手職員で「プロジェクトチーム」を立ち上げ支援に取り組んでいるとのことでした。同世代の人がその事業に関わることは、各種事業を行う上で私は大変良いことだと思います。

・また今年度から、保健課の事業で４ヶ月児健診・１歳児歯科健診を支援センターで開催することにより、認知度をアップし身近な施設と感じてもらえるようにしたとのことでした。

・「流石米どころ」、ふるさと納税の４５億円は凄いと思いました。

11月18日金曜日　糸魚川市（公共浄化槽について）

・新潟県では、２０市ある中で市設置型浄化槽の事業実施は８市で行われており、５市が「従量制」３市が人槽別の「定額制」を、採用しているとのことでした。糸魚川市では、公平な負担であるべきとの考えで、「従量制」が採用されたそうです。

・南魚沼市より広い糸魚川市も、市内を３地域に分けてあり、当初は下水道使用料と、浄化槽使用料は同額でしたが、地域により使用料単価は異なっていました。平成２２年度の、使用料改定時に使用料単価を統一し、その後、平成26年度の使用料改定時では、浄化槽ブロアの電気代が個人負担だったため、公共下水道事業と浄化槽事業で、使用料に差をつける改定をしたとのことでした。

・やはり事業を行う上で、市民にとって不公平のないようにすることは、大事なことだと思います。また、適切な改定等も必要に応じては、随時行っていくべきだと思います。

・今後、三浦市でも導入が検討されていますが、糸魚川市とは地形や地域性も違うので、三浦市独自の対策等も考えていかなければならないと思いました。

令和４年度行政視察報告（11月17日南魚沼市（所要により欠席）、11月18日糸魚川市）

蓮本　一朗

１　視察テーマ
（１）糸魚川市：公共下水道事業の取り組み

２　糸魚川市における公共下水道事業の取り組みに関する所感
（１） 糸魚川市の概要
　新潟県糸魚川市は、平成17年3月、糸魚川市、能生町、青海町が新設合併して「糸魚川市」となったものです。令和4年11月1日現在の人口は39,887人であり、面積は746.24㎢となっており、新潟県の総面積の5.93%を占めています。人口は三浦市より少し少なく、面積（32.05㎢）は三浦市の約23倍の広さです。市域に4つの国立公園、自然公園を有し、海岸、山岳、渓谷など自然に恵まれており、農業、水産業、観光業が盛んです。

（２） 糸魚川市の浄化槽事業
　合併前の平成12年度に能生町で、平成16年度に旧糸魚川市で市町村設置型個別処理浄化槽事業が開始されていましたが、1市2町合併時に青海地区を含む市内全域で浄化槽事業が開始され、現在も市内全域（公共下水道区域外及び集落排水区域外）において、市が浄化槽整備事業として合併処理浄化槽の設置からその後の維持管理までを行っています。整備対象は、住宅、事業所、公共施設等すべての施設を対象にしています。
　使用者は、浄化槽設置工事の一部に充てる分担金（一回限り）と毎月の排水量に応じた使用料を支払っています。

（３） 実績と工事の形態
　ア　浄化槽設置基数
　　新規整備700基、寄附採納244基、合計944基（R4.3.31）

イ　浄化槽普及率

公共下水道区域:96.8%／集落排水区域:87.3%／合併処理浄化槽区域:61.2%

（４）実績を実現できた理由

① 浄化槽事業区域の大半が中山間地であって、敷地に浄化槽を設置するスペースに余裕がある。

② 国の合併処理浄化槽設置支援制度（環境省-循環型社会形成推進交付金）が強化され、国からの補助が得られやすくなった。

（５）所感

使用料単価が統一されていることに加えて、個人負担となっている電気代を考慮して、平成26年度から公共下水道事業と浄化槽事業との間で使用料に差をつける制度改定が行われていることから、きめ細かく「公平な負担」が追及されていると感じました。

とはいえ、本事業は市の財政に少なからぬ影響を与えており、下水道料金の見直しは必要になってくると思います。

また、工事が設計から工事検査まで市が行っていますが、官のみによるサービス提供か、あるいは官民連携によるサービス提供かは、須らく地域特性によるものであって、それぞれの地域に対応した施策を行っていくべきであると感じました。

行政視察報告

石橋　むつみ

１　南魚沼市：子育て支援センターの取組みについて

『ほのぼの広場』は子育て支援課が「親子での遊び」「子育て仲間同士の情報交換・交流」「育児相談」などの場として、市内三会場に開設しています。

まず初めに、その一つ、イオン六日町専門店館一階の『ほのぼの広場・ふれあい広場』に伺いました。ちょうど乳児検診の受付をしている所で、開始までの合間に、床暖房の二つの広場を職員さんの説明をききながら見学しました。

続く、南魚沼市役所での視察研修で、特に印象的だったのは、『ほのぼの』のイオンへの移転の経過でした。若手職員の育成及びより柔軟な発想をと再編された「人口減少問題プロジェクトチーム」と子育て支援課などが協力し合い、ミキハウス子育て総研（株）、イオンリテール（株）との協調もあって、短期間

で移設が実現できたといいます。
　全天候型の遊び場を、土日も親と子で立ち寄れる支援センターを、という市民の声は、三浦市でも多くあります。雪国ならなおのこと、全天候型遊びの広場は必須でしょう。
　お母さんたちから「子どもの発達の悩み」「ワンオペ育児の悩み」など聴くことも多々あります。話をするだけで、すっきりほっとして帰られますよ…とのお話に、三つの会場を支える８人の保育士さんのチームワークの確かさ、温かさを感じました。

２　糸魚川市：公共浄化槽（市町村設置型浄化槽）について

　三浦市の２３倍以上の面積を持ち、田んぼの広がる米どころの町、日本海にも面して海岸線は長く、深い山間部もある町、名前を初めて聞くようなローカル線を乗り継いで、登校する高校生を眺めつつ、越後高田駅から糸魚川駅まで移動、駅からは色づいたヤマボウシやイチョウに感嘆しつつ、数分歩いて、糸魚川市役所へ。
　市役所で、２０１９年に浄化槽法が改正される７年前から、「市町村設置型個別処理浄化槽事業」、すなわち現在の公共浄化槽事業に取組んできたという、糸魚川市の浄化槽整備事業の経過や概要を、糸魚川市ガス水道局の担当者の方から説明していただきました。

　過疎の問題、高齢化の問題も深刻で、排水処理も一筋縄ではいかない。公共下水道事業、農業集落排水事業、漁業集落排水事業、合併処理浄化槽設置整備事業などなど、多様な形態の排水処理事業を展開しながら、市域をカバーしているようすが、具体的に見えてきました。
　ひとごとではありません。今後、三浦でも処理区に応じた検討を重ね、公共下水道、汲み取りや単独浄化槽を出来るだけ早くなくして、個別又は公共合併浄化槽へと丁寧に切替えていくこと、コミュニテイプラントなどなど、設置の費用、使用料、維持管理費、将来の機器の更新の費用、機器の引継ぎ、浄化した水をどのように流していくか・・・・三方海に囲まれた三浦の環境と、住む人働く人訪れる人のくらしを守るため、さまざま考えなければならないことは、いっぱいあると再認識しています。

　対応してくださった、南魚沼、糸魚川両市の関係者のみなさま、ありがとうございました。

都市民生常任委員会行政視察

神田　眞弓

１．令和４年11月17日（木）　南魚沼市

子育て支援センターの取組みについて

全国的に高い評価を受けている南魚沼産コシヒカリを中心とした農業振興はもとより優良企業の誘致活動も進めている南魚沼市。その中で子育て支援では令和３年から令和７年度まで出産祝い金として第１子12万円、第２子15万円、第３子20万円を支給するなどさまざまな子育て事業を進めています。

その１つ子育て支援センター（ほのぼの）を見学してきました。イオンの中にありミキハウスの全国初の認定施設であり、遊具や床暖房も子供に優しい作りでした。

未就学児だけでなく、小学校３年までの児童も遊びに来ているとのことでした。

その中で「親子での遊び」「子育て仲間同志の情報交換交流」育児相談などの場として親しまれていました。

当市としてもソフト面は充実した子育て施策ですが、環境になるとまだまだ・・・

ぜひ、三浦の子供たちの為にも遊具や環境が揃ったあったかい子育てが一日でも早くできる事を願います。

２．令和４年11月18日（金）　糸魚川市

公共浄化槽（市町村設置型浄化槽）について

平成17年3月19日、１市２町による新設合併日に市内全域で市町村設置型個別処理浄化槽事業を開始しました。

公共下水道区域の普及率も96.8%と高く、水洗化率も97%新潟県第２位。

設置工事は設計、工事監理、契約事務はすべて市直営で行われて申請者、工事計画を承認後市が工事を発注するという流れで行っている。

当市とは地理的条件も違ったがさまざまな質問に丁寧にお答えいただき、今後当市はコンセッション方式に移行されますが、今回下水道担当部長・課長も参加していただき他市と比較等で非常に勉強になったと思います。